



## 2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年8月5日

上場会社名 大正製薬ホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4581 URL <https://www.taisho-holdings.co.jp/>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名) 上原 明  
 問合せ先責任者 (役職名)コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 田中 慎一 (TEL) 03-3985-2020  
 四半期報告書提出予定日 2020年8月7日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	75,023	24.5	9,389	12.8	11,117	45.3	6,064	△44.9
2020年3月期第1四半期	60,260	△2.4	8,324	2.0	7,649	△37.3	11,006	△19.6

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 3,537百万円(△33.3%) 2020年3月期第1四半期 5,301百万円(△57.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	75.98	75.89
2020年3月期第1四半期	137.91	137.77

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	858,187	736,944	82.4
2020年3月期	864,974	739,778	82.0

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 707,378百万円 2020年3月期 709,374百万円

(注) 当第1四半期連結会計期間において、UPSA社との企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2020年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	50.00	—	60.00	110.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	50.00	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	289,500	0.3	20,000	△5.4	23,000	△6.0	13,000	△35.6	162.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期1Q	85,139,653株	2020年3月期	85,139,653株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	5,326,600株	2020年3月期	5,325,613株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期1Q	79,813,292株	2020年3月期1Q	79,814,025株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(四半期連結損益計算書)	6
(第1四半期連結累計期間)	6
(四半期連結包括利益計算書)	7
(第1四半期連結累計期間)	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(企業結合等関係)	8
(セグメント情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間のOTC医薬品市場は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う外出自粛や訪日外国人客の減少などから、ドリンク剤や総合感冒薬といったカテゴリーを中心に大きく前年を下回る結果で推移しました。

医薬事業につきましては、新薬創出の難易度が増すなかで、医療費適正化諸施策の浸透により、依然として厳しい事業環境が続いております。

こうした事業環境の中で、当社グループのセルフメディケーション事業部門は、製品開発面で生活者の健康意識の高まりに対応した新しい領域を開拓していくとともに、生活者のニーズを満たす製品開発をより一層進め、新たな需要の創造に努めております。また、販売面では生活者から支持される強いブランドを目指して、生活者との接点の拡大、共感を得る販促活動を実践するとともに、「大正製薬ダイレクト」、「TAISHO BEAUTY ONLINE」など、生活者のベネフィットを満たす通信販売チャネルの拡大にも注力しております。

海外では、2009年度のアジアOTC医薬品事業への本格的な参入以来、インドネシア、フィリピン、タイ、マレーシアなど、東南アジアを中心としたOTC医薬品事業の強化に取り組んでまいりました。2016年7月に24.50%の株式を取得し、段階的に出資比率を高めてきたベトナムのDHG（ハウザン）社は、2019年5月に51.01%の株式保有に至り、連結子会社となりました。今後は、同社の事業基盤を活かしたベトナムにおける医薬品事業展開の強化に取り組んでまいります。また、2018年12月19日付でBristol-Myers Squibb Company（本社：米国ニューヨーク州）との間で締結した、同社が子会社を通して所有するフランスの医薬品製造販売会社UPSA社の株式・資産譲渡予約契約についても、2019年7月1日（フランス時間）に株式・資産取得手続きが完了し、UPSA社は大正製薬の完全子会社となりました。今後成長が期待される地域にも事業を拡げていく方針のもと、東南アジア市場に欧州市場を加えた2極体制により海外事業の拡大を図り、持続的な成長の実現を目指してまいります。

医薬事業部門でも、きめ細かい情報提供活動による育成品の売上最大化を図っております。また、開発化合物の早期承認取得を目指すとともに、導入によるパイプラインの強化を進めています。さらに、外部研究機関との連携を強化し、継続的なオリジナル開発化合物の創出に努めております。

当第1四半期連結累計期間のグループ全体売上高は、750億2千3百万円（前年同四半期比+147億6千2百万円、24.5%増—以下増減の比較については「前年同四半期比」の説明とする）となりました。

セグメント別の売上高は次のとおりであります。

セルフメディケーション事業	564億円	(+ 135億円	31.4%増)
内訳			
国内	288億円	(△ 57億円	16.4%減)
海外	270 "	(+ 191 "	244.6%増)
その他	7 "	(+ 0 "	3.3%増)
<hr/>			
医薬事業	186億円	(+ 13億円	7.3%増)
内訳			
医療用医薬品	182億円	(+ 15億円	9.1%増)
その他	4 "	(△ 2 "	38.7%減)
<hr/>			

主要製品・地域の売り上げ状況は次のとおりであります。

<セルフメディケーション事業>

当第1四半期連結累計期間の売上高は、564億円（+135億円、31.4%増）となりました。

主力ブランドでは、「リポビタミンシリーズ」は、104億円（18.8%減）となりました。「パブロンシリーズ」は、35億円（39.9%減）となりました。「リアップシリーズ」は、35億円（2.9%減）となりました。「ビオフェルミンシリーズ」は、24億円（6.5%減）となりました。

海外では、DHG（ハウザン）社及びUPSA社の連結子会社化の影響もあり、アジア地域で115億円（60.5%増）、欧米地域で150億円となりました。

<医薬事業>

当第1四半期連結累計期間の売上高は、186億円（+13億円、7.3%増）となりました。

主な増収品目は、骨粗鬆症治療剤「エディロール」73億円（11.0%増）、2型糖尿病治療剤「ルセフィ」26億円（42.2%増）、骨粗鬆症治療剤「ボンビバ」17億円（4.3%増）、経皮吸収型鎮痛消炎剤「ロコア」は9億円（0.0%増）となりました。一方、末梢循環改善剤「パルクス」は6億円（26.3%減）、マクロライド系抗生物質製剤「クラリス」は5億円（53.6%減）と、薬価改定や後発医薬品の影響に加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う受診抑制等の影響もあり前年比マイナスとなりました。

利益面につきましては、海外事業の拡大により売上高が増加し、営業利益は93億8千9百万円（12.8%増）、為替差損益の影響により、経常利益は111億1千7百万円（45.3%増）となりました。また、DHG（ハウザン）社の子会社化に伴う段階取得差益がなくなったため、親会社株主に帰属する四半期純利益は60億6千4百万円（44.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ68億円減少し、8,582億円となりました。投資有価証券が50億円、土地が11億円それぞれ増加しましたが、のれんが49億円、現金及び預金が36億円、受取手形及び売掛金が33億円それぞれ減少しました。

負債は、前連結会計年度末に比べ40億円減少し、1,212億円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ28億円減少し、7,369億円となりました。その他有価証券評価差額金27億円が主な増加要因であり、為替換算調整勘定59億円が主な減少要因でした。

当第1四半期連結会計期間においてUPSA社との企業結合に係る暫定的な会計処理を確定したため、前連結会計年度の財務数値の修正を行いました。その結果、のれんは367億円減少し、1,332億円となっております。ほか、主な変動要因として、商標権が485億円、繰延税金負債が131億円それぞれ増加しております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	223,814	220,234
受取手形及び売掛金	65,463	62,209
有価証券	14,089	14,044
商品及び製品	26,616	27,408
仕掛品	3,176	3,055
原材料及び貯蔵品	13,577	14,501
その他	9,334	11,096
貸倒引当金	△449	△356
流動資産合計	355,623	352,194
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	53,999	52,771
機械装置及び運搬具（純額）	15,059	14,365
土地	38,170	39,287
建設仮勘定	2,490	2,312
その他（純額）	2,928	2,798
有形固定資産合計	112,648	111,535
無形固定資産		
のれん	133,169	128,290
販売権	690	655
商標権	73,144	70,197
ソフトウェア	6,570	7,061
その他	8,236	7,966
無形固定資産合計	221,811	214,171
投資その他の資産		
投資有価証券	145,831	150,807
関係会社株式	11,644	11,764
長期前払費用	1,009	1,033
退職給付に係る資産	4,642	4,759
繰延税金資産	11,134	11,296
その他	862	857
貸倒引当金	△233	△232
投資その他の資産合計	174,891	180,286
固定資産合計	509,351	505,993
資産合計	864,974	858,187

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,045	16,814
未払金	15,743	16,659
未払法人税等	5,414	3,479
未払費用	19,310	19,994
返品調整引当金	767	716
賞与引当金	3,769	2,072
その他	3,404	2,700
流動負債合計	66,456	62,438
固定負債		
役員退職慰労引当金	1,006	959
退職給付に係る負債	21,029	21,114
繰延税金負債	30,042	30,347
その他	6,660	6,383
固定負債合計	58,739	58,804
負債合計	125,196	121,242
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
利益剰余金	698,223	699,331
自己株式	△35,454	△35,460
株主資本合計	692,768	693,870
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,796	23,505
為替換算調整勘定	△1,145	△7,019
退職給付に係る調整累計額	△3,046	△2,977
その他の包括利益累計額合計	16,605	13,508
新株予約権	773	773
非支配株主持分	29,630	28,792
純資産合計	739,778	736,944
負債純資産合計	864,974	858,187

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	60,260	75,023
売上原価	19,037	27,837
売上総利益	41,223	47,185
返品調整引当金戻入額	853	659
返品調整引当金繰入額	771	616
差引売上総利益	41,305	47,228
販売費及び一般管理費	32,981	37,838
営業利益	8,324	9,389
営業外収益		
受取利息	1,177	538
受取配当金	926	884
持分法による投資利益	103	98
その他	99	288
営業外収益合計	2,306	1,810
営業外費用		
支払利息	0	31
為替差損	2,932	—
支払手数料	16	16
その他	32	34
営業外費用合計	2,981	82
経常利益	7,649	11,117
特別利益		
固定資産売却益	0	1
段階取得に係る差益	6,093	—
特別利益合計	6,093	1
特別損失		
固定資産処分損	3	147
投資有価証券評価損	—	152
特別損失合計	3	300
税金等調整前四半期純利益	13,740	10,818
法人税等	2,414	4,130
四半期純利益	11,325	6,688
非支配株主に帰属する四半期純利益	318	623
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,006	6,064

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
四半期純利益	11,325	6,688
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,664	2,602
繰延ヘッジ損益	△1,073	—
為替換算調整勘定	410	△5,971
退職給付に係る調整額	24	65
持分法適用会社に対する持分相当額	278	153
その他の包括利益合計	△6,024	△3,150
四半期包括利益	5,301	3,537
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,028	2,967
非支配株主に係る四半期包括利益	272	570

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

I 比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し (DHG (ハウザン) 社)

2019年5月20日に行われたDHG (ハウザン) 社との企業結合について前第1四半期連結会計期間から前第3四半期連結会計期間においては、暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。

なお、前第1四半期連結会計期間末に連結の範囲に含めたため、前第1四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書に与える影響はありません。

II 企業結合に係る暫定的な処理の確定及び比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し (UPSA社)

2019年7月1日に行われたUPSA社との企業結合について前第2四半期連結会計期間から前連結会計年度末においては、暫定的な会計処理を行っていましたが、当第1四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額142,340百万円は、36,547百万円減少し、105,793百万円となりました。のれんの減少は、主として商標権が49,748百万円、繰延税金負債が12,981百万円増加したことによるものです。

また前連結会計年度末の連結貸借対照表は、主としてのれんが36,693百万円減少し、商標権が48,524百万円、繰延税金負債が13,099百万円増加しております。

なお、前第2四半期連結会計期間末に連結の範囲に含めたため、前第1四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書に与える影響はありません。

## (セグメント情報)

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計
	セルフメディケーション事業	医薬事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	42,936	17,323	60,260	—	60,260
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	42,936	17,323	60,260	—	60,260
セグメント利益(注2)	7,032	1,605	8,638	△313	8,324

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに帰属しない当社(純粋持株会社)であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「セルフメディケーション事業」セグメントにおいて、前第1四半期連結会計期間に行われたDHG(ハウザン)社との企業結合について、取得原価の配分が完了していなかったため、のれんの金額は暫定的に算出された金額でありましたが、前連結会計年度末に取得原価の配分が完了し、暫定的な会計処理が確定したため、のれんの金額を修正しております。

この結果、のれん19,281百万円を計上しております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計
	セルフメディケーション事業	医薬事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	56,436	18,587	75,023	—	75,023
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	56,436	18,587	75,023	—	75,023
セグメント利益(注2)	5,483	4,466	9,950	△561	9,389

(注) 1 「その他」の区分は、主に報告セグメントに帰属しない当社(純粋持株会社)であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「セルフメディケーション事業」セグメントにおいて、前第2四半期連結会計期間に行われたUPSA社との企業結合について、取得原価の配分が完了していなかったため、のれんの金額は暫定的に算出された金額でありましたが、当第1四半期連結会計期間に取得原価の配分が完了し、暫定的な会計処理が確定したため、のれんの金額を修正しております。詳細は、「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(企業結合等関係)」に記載のとおりです。